

C・C・S企画ガイド

一般社団法人法政大学校友会

C・C・S企画委員会

2017年4月

【C・C・S企画の取り組みについて】

1. C・C・S企画の目的

C・C・S企画の目的は、法政のキャリア・法政のカルチャー・法政のスポーツのパワーを広く情報発信すること、法政のステークホルダーはもとより、幼児からご高齢者に至るまで、社会一般の皆様と直接触れ合う機会を提供しようとする企画です。

講演・演奏そしてスポーツ教室・交流等、健康的で明るい社会生活のために貢献できる内容を企画いただき、専門業者に委託するのではなく、法政パワーを結集した「手作りイベント」として推進することで、法政大学(大学・卒業生・在校生・後援会)が一体になっての社会貢献にもなります。

既に、大学応援団を始め学生諸団体の協力を得て校友会総会時のイベントとして取り組まれておりますが、「大学教職員の派遣」「後援会との連携」「一般公開方式」など校友会事業「C・C・S企画」として制度化いたしました。また、学生諸団体への経費は、後輩たちへの活動支援の一助と考えております。

以下、事業企画に当たってのポイントをご案内申し上げますので、パートナー組織単位の制度運行となりますが、「オール法政ネットワークづくり」策としてご活用頂きますようお願い申し上げます。

2. 一般社団法人法政大学校友会各種催事実施基本マニュアル (C・C・S企画本部作成)

(1) なぜこの事業(イベント)を行うのか?

基本的なコンセプト(概念・観念・目指すもの)を打ち出すことが、イベント成功の最も重要な要素である。これが明確にならないまま開催すると、イベントの面白みがなくなるだけでなく迷走したイベントになる可能性があり、カネと時間の無駄遣いに終わりイベントの目的を果たすことができなくなってしまう。

(2) 各種イベントを成功に導く基本は、「5W・2H」の考え方でプランする。

5W2Hを活用し地域大会や各種事業の目的に沿った企画を立てる。

Why「なぜ」

◎どんな趣旨、◎どんな目的で、◎何のために行うイベントかを「明確にすること」。

イベントがもたらす効果を十分に検証し予算の見通しを立てること。

When「何時」

◎いつ頃開催するのか◎「何時頃実施するのか」◎「どのくらいの期間開催するのか」を検討する。

年間行事や季節の特徴を考慮して、最適な時期、時間を選定する。

where「何処で」

◎会場手配は28ヶ月前 ◎「どこで開催するのか」を検討する。

集客予想人員や交通アクセス、施設の自然災害に対する安全性・設備や警備体制等諸条件並びに経費等トータルな見地に立って開催地域と会場を決定し、早急に会場確保すること。

Whom「誰に」

ターゲットは誰！！ 目的達成の具体的なターゲット層を設定する。

◎「どんな層をターゲット」にして

◎「何人くらいの規模」で行うか？ イベント対象ターゲットをどの層にするか。

What「何を」

このイベントで

◎「何を提供したいのか？ ◎「何を伝えたいのか？」

コンセプトに沿った内容で演出や広告を含む全てのイメージが「法政のイメージアップ」に繋がる2Hでイベントの細部まで詰める。

How「どのようにして」

How Much? 「いくらで」

「イベントに使える予算を積算し十分に収支予測について協議・検討を重ね、実行に移す。。収支予測の管理が置き去りにされ勝手に予算以外の支出をしたらイベント全体のパフォーマンスは崩れて折角のイベントも頓挫することになる。

3. 「C・C・S企画活動経費補助規程」

「オール法政ネットワークづくり」「法政パワー情報発信力強化」のため「C・C・S企画」経費補助規程を以下の通り定める。

なお、大学教職員派遣制度を活用の場合は、本申請書と併せ事務局宛申請書を提出ください。

1、目的

「法政大学の力を束ね、オール法政のネットワークづくり促進」及び各パートナー組織のチームワーク強化と情報発信促進のための活動に支援を行う。

2、「C・C・S企画」経費補助要領

1)対 象

① 一般社団法人法政大学校友会のパートナー組織が主催・共催する組織強化のための一般公開事業で、その規模が本学校友・在学生・後援会員で50名以上参加し、一般参加者を含め総数が100名以上の規模の参加者が見込めること。

② 前項の条件をみたく事業企画は、学生団体派遣も同時に申請できる。

2)事業実施期間

2017年度:2017年4月～2018年3月

2018年度:2018年4月～2019年3月

2019年度:2019年4月～2020年3月

3)申請時期

①実施計画の3か月前までとする。ただし、田中総長の出席要請は、原則として前年度の11月末迄とします。法政大学総長室から翌年1月末に出席の可否の回答がありますので、事務局から連絡します。

②必ず事務局を経由してください。パートナー組織の周年行事に総長出席要請を計画される場合は、事前に事務局と打ち合わせ願います。

③実施6ヶ月前で年間予算枠があれば、追加申請を受付けます。

4)補助の時期

事業実施報告書受領後とする。

5)申請方法

①「**C・C・S企画事業実行計画書**」に所要添付資料とともに校友会「C・C・S企画」本部宛て提出。

②企画書・関係経費の業者見積書(3ヶ月以内のもの)を添付。

③ 飲食関係費は、経費補助対象項目には含みません。

- ④ 経費支援対象経費は、下記の項目並びに金額となります。
- ⑤ 支出明細書（領収書添付）と事業実施報告書を提出してください。

6) 経費補助対象項目と金額

① 補助対象項目

・会場費 ・印刷費 ・郵送・通信費 ・広告料 ・看板費 ・講師料(*1) ・出演料(*2)

*1: 大学よりの教職員講師派遣経費は、別枠にて対処いたします。

*2: 学生音楽団体、スポーツ団体(含む応援団)の出演経費は、1人8000円にて算出願います。なお、機材運搬のための経費も予算に含め算出願います。

注: 飲食に関わる経費は一切認められません。

* 在学生の場合、損害保険を必ずお手配願います。

② 補助金額

上限 200,000円（補助対象経費合計額の50%）

7) 審査・決裁 申請後1ヶ月以内に「C・C・S企画」委員会にて、事業計画を書類並びにご担当責任者に確認させて頂き、執行役員会にて採・否を決定後、ご通知申し上げます。

事前申請書提出がない場合は理由を問わず、CCSの経費補助を行うことはできません。

「C・C・S企画」支援年間予算枠を超えた場合は、執行役員会に諮り会長がこれを決裁致します。

8) 年間支援申請

年間枠 20件 400万円

原則 1パートナー組織あたり年間1件。

* 教職員派遣年間枠は、10件です。

* 問合せ先

一般社団法人法政大学校友会 事務局内「C・C・S企画」委員会

電話:03-3264-1831 FAX:03-3264-4770

以上

申請日 _____ 年 月 日

一般社団法人 法政大学校友会
 会長 佐々木 郁夫 殿

パートナー組織名
 代表者氏名

Ⓜ

[C・C・S企画]事業推進実行計画書

主催団体名	
共催者名	
住所	
電話・FAX・メール	

事業企画名	
実行日時	
実行場所	
事業総予算	
経費補助要請金額	
参加対象者と参加予定人員	校友 _____ 名 後援会 _____ 名 在学生 _____ 名 小中高生 _____ 名 一般 _____ 名

事業内容

注) 本欄にて記入できない場合は、会長宛てに各位の報告様式にて補足説明をお願い致します。

- * 1 申請書には、大会案内チラシ・新聞記事・式次第・大会参加予定者名簿を必ず添付のこと。
- * 2 申請承認の場合は、開催経費予算明細書並びに支援金額領収書の提出をお願い致します。

決裁	会長	CCS委員長	事務局長	役員会決裁	可決	条件付可決	否決
振込予定日				決裁日		承認番号	
備考							

事務局処理	CCS企画推進本部	事務局長印	会計事務担当者印
振込実行日			

4. C・C・S企画（教員派遣）制度運用について

大学教職員派遣制度は、学校法人法政大学と一般社団法人法政大学校友会との間で合意され、実際の運用を円滑に推進するためには、下記ルールに従い運用する。

1. 本制度に運行に関わる関係当事者は、（1）依頼元となるパートナー組織（2）校友会本部（3）卒業生・後援会連携室（4）派遣教員 の四者である。
2. 派遣依頼から派遣可否通知

○大学教員の派遣を依頼するパートナー組織が、パートナー組織会長（地域パートナーの場合は、都道府県校友会会長）の承認を得たうえで、所定のフォームで校友会事務局に派遣依頼書を送付する。



○校友会事務局は、所定フォームを確認して卒業生・後援会連携室に渡す。



○校友会事務局は、依頼パートナー組織に派遣の可否を伝える



3. 派遣可能な場合、実施から精算まで

◎依頼パートナー組織は、出張を承諾した大学教員と当日のスケジュール（到着時間、講演テーマ、配布資料、パソコン使用等）等詳細につき予め直接確認をしておくこと。出張者自身も講演に関わる必要情報（来場者の属性、来場者予定者数等）の現地情報は直接依頼者から事前確認のこと。

◎派遣教員は、出張に必要なチケット・宿泊先などを自ら手配する。手配先は大学内のHUマイコム学生サービスセンターを推奨する。出張後の精算など事務処理が不要となる。

◎卒業生・後援会連携室で実施後、出張の謝金及び日当を出張者の給与口座に振り込む。自宅から主要駅・主要空港並びに出張先における現地交通費は原則自己負担とする。

年間ガイドライン

1. 派遣回数は、年間10回までとする。
2. 派遣に関わる費用は、すべて法政大学の予算から支出するが、本申請手続きを経ない派遣は本制度の対象外とする。
3. 派遣依頼は、各都道府県校友会単位として年1回とする。同一地域パートナー組織の複数単位組織が、同一年度内に派遣依頼することはできない。
4. 派遣依頼書受付開始時期は開催日の6ヶ月前から、受付終了時期は、開催日の1ヶ月前までとする。
5. 本制度においては、派遣記載候補教員に限定する。

年 月 日

一般社団法人法政大学校友会 御中
 メール：jimukyoku@hoseinet.jp

受付番号

法政大学教職員派遣依頼書

標記につき、以下のとおり申請いたしますので、よろしくお手配のほどお願いいたします。

パートナー組織名	校友会	支部
開催イベント名	パートナー組織名	
開催イベント日時	総会 大会	
開催場所・所在地	(住所)	
派遣希望教員名	第一希望	
	第二希望	
講演会開始時間・終了時間		
その他		

派遣の可否を下記の担当者までご連絡ください。派遣が決定したあとは、当日詳細を派遣頂く先生と直接打ち合わせをさせていただきます。

所属パートナー組織名	
氏名（役職）	
連絡先住所	〒
（携帯番号）	
メールアドレス 必ずご連絡ください	

一般社団法人法政大学事務局 使用欄

校 友 会 事 務 局	法政大学事務部門	派 遣 教 員
年 月 日	年 月 日	年 月 日

4. 音楽団体一覧

2014/4/30

No	サークル名	ジャンル	顧問	構成	男女比	主な活動場所
1	アリオンコール	男声合唱		14名	男性のみ	外濠校舎
2	交響楽団	オーケストラ	奥田 和夫	141名	1:1	市ヶ谷キャンパス
3	応援団吹奏楽部	吹奏楽		44名	2:3	外濠校舎
4	With Heart	吹奏楽	山下 敬	85名	4:6	外濠校舎
5	アコースティックギターサークル	ギター	梶 裕史	59名	2:1	外濠校舎
6	ギタークラブ	クラシックギター		38名	10:9	富士見坂校舎
7	ギター研究会サークル仲間	ギター	椎名 美智	75名	1:1	外濠校舎
8	ピアノの会	ピアノ	藤村 康治	104名	1:1	外濠校舎
9	マンドリンクラブ	マンドリン	竹内 淑恵	31名	17:14	外濠校舎
10	HOME	軽音楽	立石 真公子	120名	6:4	外濠校舎
11	民族音楽研究会	オールジャンルバンドサークル	藤原 裕子	135名	6:4	学生ホール
12	ジャズ研究会	モダンジャズ	我孫子 信	29名	18:11	外濠校舎
13	フォークソング研究会	オールジャンルバンドサークル	宮瀬 慎也	112名	6:4	ヘリオス レインボーテラス
14	横浜シーパラダイスオーケストラ	オールジャンルバンドサークル		50名	5:2	外濠校舎
15	ロック研究会	オリジナルバンド	廣瀬 克哉	19名	2:1	富士見坂校舎
16	II部モダンジャズ研究会	R&B、ソウル、ファンクなどのブラックミュージック	小林 孝	73名	50:23	外濠校舎
17	Country rangers ERIMA	オールジャンルバンドサークル		70名	6:4	外濠校舎
18	New sounds Project	オールジャンルバンドサークル	鈴木 秀之	105名	6:4	大内山庭園
19	Musik	オールジャンル音楽サークル	荒川 裕子	93名	6:4	外濠校舎
20	New Orange Swing Orchestra	ビッグバンドジャズサークル	中田 和秀	58名	1:1	富士見坂校舎
21	Jazz Study Club	不明	白田 秀彰	不明	不明	多摩地区
22	Free Music Society	不明	鈴木 宗徳	不明	不明	多摩地区
23	Voice of Winds	不明	中村 律子	不明	不明	多摩地区

5. 学部別講演講師候補者一覧

2017.4.20 現在

法学部

専任教員が対応します。研究テーマについては別途資料を準備します。

文学部

教員氏名	講演テーマ	出身
渡辺 弥生	子ども(幼児期、児童期、青年期)の心の発達	大阪
	子どもの発達と親のかかわり	
	学校での危機を予防する教育(思いやり、社会性、道徳性、感情を育てる教育)	
	親子で学ぶソーシャルスキル	
	いじめを予防する教育	
尾谷 昌則	あなたの日本語、本当に間違っていないか？ 若者言葉は乱れてる？！	富山

経済学部

教員氏名	講演テーマ	出身
中谷 安男	グローバル人材の育成・国際ビジネスコミュニケーションの視点	福岡
藤田 貢崇	科学ジャーナリズム、高レベル放射性廃棄物、天文学	北海道

社会学部

教員氏名	講演テーマ	出身
鈴木 麻美	数学教育と現代の社会問題との関係性	東京
	数学と文明との関わり	
	数学の歴史、社会における数学的思考	
金原 瑞人	翻訳に関する話	岡山
堀川 三郎	環境社会学 都市社会学	東京
	まちづくり 公害問題	
	町並み保存問題(日本およびアメリカ)	
吉村 真子	マレーシア(社会、経済、エスニシティ、労働、ジェンダー、メディア、日本との関係、歴史 などなんでも…)	東京
	東南アジアの社会と経済 東南アジアと地域研究	
	アジアのジェンダー アジアの労働	
	アジアの国際労働移動 開発とジェンダー	
糸久 正人	イノベーションマネジメント	東京
	ものづくり戦略	
	イノベーションマネジメントの変容(ビジネスエコシステムの視点から)	
	自動車産業におけるカーエレクトロニクス分野の標準化戦略	
上林 千恵子	日本の高齢者雇用	東京
	外国人労働	
	女性労働	
中筋 直哉	まちづくり コミュニティ	兵庫
	デモ 社会運動	
	農村 都市	
	社会調査	
藤代 裕之	ソーシャルメディア時代のジャーナリズムやメディアの役割	徳島
	メディア・リテラシー	
白田 秀彰	情報法	宮崎
	知的財産権法 表現規制	
岡野内 正	世界の飢餓・貧困問題	広島
	民族・宗教紛争とその解決策	
	パレスチナ問題 先住民の権利問題	
	歴史的不正義と国際社会の正義回復問題	
	ベーシック・インカムをめぐる諸問題	
三井 さよ	知的障害	石川
	ケア 介護の社会学	

小林 直毅	水俣事件報道 戦後メディア史 テレビ史・テレビアーカイブ 原発震災後のテレビ報道	大阪
長谷部 俊治	都市政策 不動産制度 水制度 環境と開発・地域整備	
田口 博雄	金融政策 経済政策 スイスの地域政策	東京
鞠子 茂	生物社会の科学 地球環境問題 生物多様性	東京
白鳥 浩	政治関係	
田中 充	環境問題・環境政策 地域温暖化問題 自治体環境問題	長野
稲増 龍夫	現代若者論 ネット文化論	東京
藤田 真文	テレビドラマ 東日本大震災と放送 放送界を中心としたマスコミ全般	青森
平塚 真樹	現代社会と若者(大学生) 人はどうおとなになるか? 大学教育論	愛知
土橋 臣吾	メディアと社会(特にインターネット、モバイルメディア)	
池田 寛二	環境・エネルギー政策 地域問題 アジアの中の日本	長野
関口 浩	財政関係 埼玉県北の歴史 財政学と大内兵衛	埼玉
徳安 彰	現代社会論 グローバリゼーション論 スポーツ論	佐賀

国際文化学部

教員氏名	講演テーマ	出身
高柳 俊男	国際文化学部はなぜ長野県で国内研修を始めたか 法政大学の歩んできた道 日本は隣国の言葉をどう学んできたか 日本と朝鮮半島—海峡を超えた人の移動	栃木 群馬
江村 裕文	異文化の壁を乗り越える 外国語の学び方 アラビア語の話 スワヒリ語の世界	京都
中島 成久	バリ島の「創造」 インドネシアの(土地)紛争	鹿児島
松本 悟	メコン川流域の開発と環境 市民が作ったODA政策 NGO／市民社会論 NHK記者、草の根国際協力、そして大学教員 元仕分け人が事業仕分けを語る	神奈川
須藤 祐二	アメリカ恐怖小説の「コミカルさ」 ディズニーアニメとアメリカの移住の歴史 アメリカスポーツ産業と人種問題	群馬

人間環境学部

教員氏名	講演テーマ	出身
石神 隆	人間と環境の町づくり	静岡

現代福祉学部

教員氏名	講演テーマ	出身
図司 直也	農山村地域を中心とした地域づくり、地域マネジメントの取り組み 農山村・地方に向かう若者、地域サポートの動向とその可能性 都市と農村の交流・協働の取り組み	愛媛

キャリアデザイン学部

教員氏名	講演テーマ	出身
上西 充子	賢明な就職活動に向けて	奈良

デザイン工学部

教員氏名	講演テーマ	出身
陣内 秀信	グローバル・シティ東京の魅力	福岡
野々部 宏司	ものづくりのマネジメント	
赤松 佳珠子	モノ・ヒト・コト	東京
藤山 知加子	構造物の壊れ方ー絶対に壊れない構造物は作れるか？	福岡
福井 恒明	地方都市の景観まちづくり	東京

生命科学部

教員氏名	講演テーマ	出身
明石 孝也	機能性無機素材を用いた環境対策 イオンを導くセラミックスを用いた燃料電池	埼玉
石垣 隆正	環境・エネルギーとセラミックス	群馬
緒方 啓典	ナノマテリアルを用いたデバイス応用	東京
杉山 賢次	環境とプラスチック	埼玉
高井 和之	原子が見える顕微鏡	東京
村野 健太郎	地球温暖化問題 越境大気汚染と酸性雨	鹿児島
森 隆昌	暮らしを支える”こな”の技術	岐阜
山下 明泰	生体内環境と人工臓器治療	東京
鍵和田 聡	植物も病気になる～ウイルスの感染～	神奈川
上遠野 富士夫	虫を持って虫を制す！	千葉
佐野 俊夫	植物を生かし植物を活かす	東京
西尾 健	植物医科学の話	大阪
濱本 宏	植物に病気を起こすやっかい者を使って植物を改良する	兵庫
山本 兼由	ゲノム全遺伝情報の解読で生命は理解できたか？	大阪

グローバル教養学部(GIS)

教員氏名	講演テーマ	出身
渡辺 宥泰	世界の英語、日本の英語	愛知

スポーツ健康学部

教員氏名	講演テーマ	出身
高見 京太	目的に合わせた運動えらび 体重コントロールのしくみ	愛知
安藤 正志	スポーツ障害とその対処法(講義) ストレッチングの実際(実技)	香川
清雲 栄純	総合型地域スポーツクラブの育成 スポーツマネジメントにおける課題 我が国のスポーツ振興における課題	山梨
山本 浩	オリンピックの時代	島根
神和住 純	スポーツと健康 テニスと私 プロの厳しさ	石川
泉 重樹	コアトレーニング(スタイビライゼーションエクササイズ) フィジカルチェックとコンディショニング スポーツ選手のコンディショニング～体幹トレーニングに着目して～	千葉
成田 道彦	陸上競技(長距離の指導)	秋田
苅部 俊二	陸上競技コーチング	神奈川

三ツ谷 洋子	スポーツでまちをつくる 女性が戦ってきたもう1つの相手とは	東京
井上 尊寛	スポーツとビジネス 日本のプロスポーツの未来 スポーツとブランド	鹿児島
木下 訓光	熱中症はなぜ起きるのかーその予防と対策ー スポーツ選手の突然死	東京
日浦 幹夫	運動に伴うダイナミックな脳機能の変化について	千葉

以上